

## 令和5年度普及指導活動の外部評価について

### 1 外部評価の目的

本県の普及指導活動の成果等について、外部委員からの客観的な評価や幅広い意見等を受け、その結果を普及指導活動に適時・的確に反映するとともに、次年度以降の普及指導計画の改善につなげる。

### 2 評価項目と評価会の開催

各地域振興局・支庁（事務所）農政普及課等において、普及指導計画に基づく普及指導活動の成果等について評価会を開催した。

主な評価項目	評価会の開催	
	場 所	時 期
○普及指導計画に基づく普及指導活動 ・ 普及指導計画の課題，対象の選定 ・ 活動体制・活動方法 ・ 活動の成果 ・ 波及性と今後の対策	各地域振興局・ 支庁（事務所） 農政普及課等	令和5年11月 ～ 令和6年1月

### 3 外部委員（評価する者）

農業者・地域リーダー，市町村，農業委員会，JAなど，地域農業の動向や農政の展開方法等に対して，十分な理解と知識を有している者を選定（188人）。

### 4 評価結果の概要等

普及指導計画に基づく普及指導活動（45課題）に関する5つの評価項目について評価を受けた。

評価項目	評価結果(割合：%)		
	適 当	概ね適当	要改善
1 課題の設定	88	11	1
2 対象の選定	79	21	0
3 活動体制・活動方法			
(1) 関係機関・団体等との連携	79	21	0
(2) 活動の方法，時期，手段	79	21	0
(3) 専門的な技術・情報の活用	79	21	0
4 活動の成果			
(1) 農業者，地域，産地育成等の効果	67	32	1
(2) 指導対象の課題解決への取組	64	36	0
5 活動の波及性と改善			
(1) 他課題や他農業者，地域への波及性	60	39	1
(2) 今後の対策	57	42	1

※ ラウンドにより，合計が合わない場合がある。

### 5 参考資料

- ・ 令和5年度 普及指導計画に基づく普及指導活動の外部評価課題一覧
- ・ 令和5年度 普及指導計画に基づく普及指導活動の外部評価結果

## 令和5年度 普及指導計画に基づく普及指導活動の外部評価課題一覧

※ 45課題について外部評価を受けた。

所 属 名 ・ 評 価 課 題 名	
鹿児島地域振興局 農林水産部 農政普及課	
3	さつまいも生産安定に向けた基腐病対策の推進
	肉用牛農家の生産コスト低減と産地維持の取組
	軟弱野菜の夏期生産安定・省力化技術の確立・普及
鹿児島地域振興局 農林水産部 農政普及課 日置市駐在	
2	次代を担う農業者の支援
	加温大将季の生産安定の取組
南薩地域振興局 農林水産部 農政普及課	
4	南薩の農業を支える担い手の確保 ～新規就農者の経営確立支援～
	日本一の茶産地育成
	サツマイモ基腐病対策による畑作営農の再構築
	南薩の特色を生かした戦略的果樹産地の育成
南薩地域振興局 農林水産部 農政普及課 指宿市十二町駐在	
3	指宿の未来を担う精鋭農業者の育成
	指宿地域の特色を生かした野菜産地の育成
	指宿地域の特色を生かした果樹産地の育成
北薩地域振興局 農林水産部 農政普及課	
2	安定生産可能な水田農業の実現
	やまのいもの「稼ぐ力」を引き出す
北薩地域振興局 農林水産部 農政普及課 出水市駐在	
3	果樹産地を担う新規就農者の育成
	いちごの栽培技術の高位平準化
	温州みかんにおける温暖化適応技術の確立・普及
北薩地域振興局 農林水産部 農政普及課 さつま町駐在	
2	地域の特色を活かした野菜産地の育成、魅力ある柵野地区水田営農をめざして ～さといもの産地づくりによる水田農業の振興～
	次代を担う茶業経営体の育成 ～高品質茶生産技術の継承と発展～

所属名・評価課題名	
始良・伊佐地域振興局 農林水産部 農政普及課	
5	地域の農業を支える担い手(女性農業者)の確保・育成
	地域の強みを生かした茶産地の育成
	地域の特性を生かした畜産産地の育成
	地域の特性を生かした特徴ある畜産産地づくり
	担い手への農地流動化の取組
始良・伊佐地域振興局 農林水産部 農政普及課 伊佐市駐在	
	本所と合同開催
大隅地域振興局 農林水産部 農政普及課	
5	担い手確保・育成普及活動
	サツマイモ基腐病対策によるさつまいもの生産安定
	ピーマン環境制御研究会をモデルとした産地の育成
	IPMを活用した茶病虫害防除支援
	肉用牛生産基盤を支える農家の育成及び自給粗飼料増産の取組
大隅地域振興局 曾於畑地かんがい農業推進センター 農業普及課	
4	加工・業務用かぼちやの技術確立
	曾於の農業を支える担い手の確保・育成
	肉用牛繁殖農家の経営安定・発展に向けた支援
	サツマイモ基腐病対策によるさつまいも生産の安定
熊毛支庁 農林水産部 農政普及課	
2	種子島地域のでん粉用さつまいも産地維持に向けた取組支援
	パッションフルーツ農家に対する支援活動
熊毛支庁 屋久島事務所 農林普及課	
2	果樹を主体とした地域営農のしくみづくり
	屋久島ばれいしょの生産安定
大島支庁 農林水産部 農政普及課	
3	喜界島の早熟かぼちや新規就農者の早期経営安定対策
	施設パッションフルーツの単収向上と収穫時期の前進化
	ローズガラス栽培における課題と解決に向けた取組
大島支庁 徳之島事務所 農業普及課	
2	特色ある茶産地の育成
	徳之島地域農業を支える担い手の育成
大島支庁 沖永良部事務所 農業普及課	
3	与論島における地域資源を生かした耕畜連携の確立
	実需者のニーズ及びSDGsに対応したスプレーギクのスマートフラワー取組支援
	さとうきび受託調整組織の設立支援

令和5年度 普及指導計画に基づく普及指導活動の外部評価  
委員からの意見提言及び意見に対する改善策等

※ 評価：評価委員188人

【サツマイモ基腐病対策関係】

評価項目	主な意見・提言	意見・提言に対する改善策や普及指導計画への反映等
課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の基幹作物であり必要性を感じる。</li> <li>・さつまいもは、防災営農上、重要な品目であるとする。</li> </ul>	
対象の選定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏の会議で当地域での基腐病の発生は、少ないと聞いていた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収穫が始まるころから徐々に発生拡大し、周知喚起する必要がある。R6年度も基腐病対策に向けて周知を図る予定。</li> </ul>
活動体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関・団体等との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R6年度の普及計画において、今後も関係機関と連携し、継続的な取り組みを予定。</li> </ul>
活動方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の方法、時期、</li> <li>・R4年度の圃場との比較がなかったのが気になった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6年度以降もこの体制の中で地域の実情に応じて活動する。</li> <li>・発生したほ場には2～3年は植付けしない、他の品目を植えるなど指導しており、単純に比較はでない。今後は、発生したほ場の割合を暦年で示すよう努める。</li> </ul>
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8戸の状況がどう変わったのか、4地区の状況がどうなったのかといった点が見えたら参考になる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度普及指導計画に位置付け、引き続き、健全種いもや健全苗、健全ほ場の確保に向けた支援及び実証活動を通じた防除技術の確立に向けた取組等を行っていくこととしている。</li> </ul>
指導対象の課題解決への取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数年間に及ぶ対策の効果が確認できた。今後とも期待したい。</li> </ul>	

評価項目	主な意見・提言	意見・提言に対する改善策や普及指導計画への反映等
<p>活動の波及性と改善</p> <p>他農業者や地域への波及性</p> <p>今後の対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 畜産農家との連携について、引き続き調整をお願いしたい。</li> <li>・ 基腐病の被害は年々減少してきている。</li> <li>・ 対策の早期構築をお願いしたい。</li> <li>・ 農業者への指導・助言を引き続き進めていただきたい。</li> <li>・ 令和6年度以降も、今まで通りのプロジェクトチームを立ち上げていくのか？</li> <li>・ 単収も上がって取組の成果が出ているが、まだまだ課題は多いので、さらに進めてもらいたい。</li> <li>・ 農家だけでなく農業関係者まで情報共有している。高齢農家など情報弱者への情報提供の配慮が良い。</li> <li>・ 基腐病対策などは、地域や県で抱える課題への対応は、波及性が高いと感じた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 飼料作との輪作は、基腐病対策の1つであり、特に被害の大きいほ場については、健全なほ場の確保の観点から、畜産農家との調整を図っていきたい。</li> <li>・ 令和6年度普及指導計画に位置付け、引き続き、健全種いもや健全苗、健全ほ場の確保に向けた支援及び実証活動を通じた防除技術の確立に向けた取組等を行っていくこととしている。</li> <li>・ 6年度以降も引き続きプロジェクトチームと連携を図りながら各市WGで活動していく。</li> <li>・ 6年度からの新しい普及計画にて対応する。</li> </ul>

。

【担い手育成関係】

評価項目	主な意見・提言	意見・提言に対する改善策や普及指導計画への反映等
課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>普及活動の中で最も重要性が高い課題である。</li> <li>現在の農業従事者の減少，こうれいkに対し，大切な課題となっている。</li> <li>地域の現状に対する問題について明確に捉えられている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き重点活動として，関係機関と連携しながら取り組んでいきたい</li> </ul>
対象の選定	<ul style="list-style-type: none"> <li>「経営志向」の就農者に重点支援するのは当然だが，「半農半X志向」や有機農業志向の就農希望者もちらほらある中，経営計画が成り立たず就農につながらない例がある。「経営志向」以外の類型への支援はどうすれば良いか。</li> <li>新規就農者の選定など適切であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「経営志向」の就農者を対象として引き続き支援していく計画であるが，それ以外の類型への支援を行うことで多様な担い手の育成につながると考えられることから，関係機関と連携しながら支援を行い，「経営志向」へ誘導していきたい。</li> </ul>
関係機関・団体等との連携 活動制・活動方法 活動の方法，時期， 専門的な技術・情報の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>親元就農，農大卒業生が就農者の中心だと思うが，飛び込みの就農者や兼業者を育てることで担い手を増やす必要がある。</li> <li>支援チーム体制がしっかりと構築している。</li> <li>一生懸命に相談に対応する職員に感謝している。安心して相談できる場所があり，農家にとって心強い。</li> <li>新規就農者支援については指導農業士，農業委員，関係機関の連携もとれており，手厚い支援が行われているので体制を維持してほしい。</li> <li>JAとの連携が希薄であり，課題</li> <li>地域の指導農業士を講師として迎えたことで，今後も継続し指導農業士と新規就農者との相談，交流につながることが大いに期待できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規参入者や兼業農家は就農時において脆弱な対象であることから，関係機関が連携・役割分担・情報共有を行い，国の制度活用や技術・経営に係わる支援を重点化することで担い手へつなげていきたい</li> </ul>

評価項目	主な意見・提言	意見・提言に対する改善策や普及指導計画への反映等
<p>活動の成果</p> <p>農業者、地域、産地育成等の効果</p> <hr/> <p>指導対象の課題解決への取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過去5年間に於いて離農者がいないことは良好な成果である。</li> <li>・指導は適切になされていても、生産者が聞く耳を持たず成長しない方への支援が課題。</li> <li>・今後は、収益が出る農業のあり方が必要。</li> <li>・3年間支援した59戸のそれぞれの経営状況がどのように改善されたかが見えない。(経営が良くなった農家数等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き関係機関と連携して就農定着に向けた支援を行っていききたい。</li> <li>・就農類型の多様化による個人の価値観を尊重しつつ、支援機関や先輩農業者らとの関わりを促し、意識を変える取組を行っていききたい。</li> <li>・収益向上に向けて、個別面談を行うなど技術面及び経営面において関係機関・団体一体となって支援する。</li> </ul>
<p>活動の波及性と改善</p> <hr/> <p>今後の対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規就農者の育成は大変重要であるが、長年地域を支えてきている農業者の問題解決が図られているか次年度は報告していただきたい。</li> <li>・所得モデル等を示しながら、農業は楽しくて儲かる仕事だと言うことをもっと発信してほしい。</li> <li>・農地確保は、農業委員や農地推進委員と相談し、農業委員会事務局へ足を運べば良いと考えます。</li> <li>・地域の指導農業士を研修に迎えたことで、指導農魚士と新規就農者の距離が近くなり、新規農業者から他農業者、就農希望者へと波及することが期待できる。</li> <li>・法人化に向けた良い取組と思う。今後、若い生産者の育成支援体制を確立し、担い手を創出してもらいたい。</li> <li>・生産者が減少する中、担い手確保は重要であるので、さらに取組を進めてもらいたい。</li> <li>・今後、事業継承に関する支援もお願いしたい。</li> <li>・指導対象農家等の技術や経営面の工夫などを、他の農家（認定農業者のみならず）へ情報提供いただければより良いと考えます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回は担い手の中の新規就農者育成について評価したが、次年度以降、認定農業者等の支援についても報告する。</li> <li>・技術面、経営面、販売面等の優良事例について機会をとらえて発信するよう努める。</li> <li>・研修会や現地指導等を通じて農業委員会へ相談に出向くよう周知する。</li> <li>・新規就農者や青年農業者の育成は重要と考えていることから、令和6年度普及指導計画に位置付け、引き続き、関係機関・団体と連携した取組を展開してまいりたい。</li> <li>・地域農業を担う人材の確保・育成は重要であることから、令和6年度普及指導計画に位置付け、引き続き、担い手農家の経営発展や法人化支援等を行うこととしている。</li> <li>・経営継承志向農家に対しては、引き続き、研修会や専門家派遣等を通じた支援を行うこととしている。</li> <li>・事例は情報提供できるよう工夫して参ります。</li> </ul>